

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

オープンキャンパスに参加し、学校設備が充実しており、学校全体の雰囲気がとても良いと感じたので「同志社女子大学」を志望校に決めました。

- (2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

1学期は正直、受験勉強と呼べるような勉強は始められていませんでした。しかし、「国語は伸びるのに時間がかかる。」と何度も言われていたため小説を借りて読んでいました。また、学校の授業は大切にしていました。板書や先生の話をつわりやすくまとめることに重点を置いてノートをとっていました。

〔夏休み〕

周囲の子たちも徐々に本気で取り組み出した頃でしたが、私はそこまで自分を追い込むことができませんでした。(夏休みの頑張りで大きな差がきます)
自分一人ではできなかったので、学校の開放されていた教室を利用したり、受験に向けた学校の補習に申し込んで参加したりしました。問題集は文章で答える問題以外、基本的に書かず、解いていました。口頭で答える方式です。間違えやすい漢字、覚えられないものは何度も書きました。

〔2学期～入試直前〕

この時期に公募推薦を受けると決めたので、オープンキャンパス時にもらった過去問等を使って傾向を掴み、時間配分を考えました。(私の場合は過去5～6年分をやりました)
また、学校で受験した模試は必ず復習して、間違えたところをそのままにしないことに気をつけました。これにより、結構伸びた印象があるので絶対やった方がいいです。
私は入試問題の英語がすごく苦手だったので直前まで単語の勉強をしていました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

「受験生だとは言っても、高校生活最後の行事は全力で取り組みたい!!」と思っていたので学校では行事の準備等にも参加していました。そのような期間は机に向かって勉強すると言うよりも、単語などの暗記系の勉強をスキマ時間にしていました。
受験期はいろいろ詰め込んでしまいがちですが、あえて友達と放課後にご飯に行ったりカラオケに行ったりするといったゆとりを持つことが私には合っていました。
テレビは見たいものだけを録画して、ダラダラと見てしまわないように気をつけていました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

「受験は大変だ」、「受験を甘く見るな」と言われることも多いですが、そこで焦ったりせずにある程度自分のペースを保つ、言葉だけでもポジティブでいるということが大切だと思います。メリハリをつけることも意識して、無理せずに頑張ってください!!